

予報期間 9月15日から9月21日まで

◆今期間のポイント

<主要しょう乱の概要>

- 17日から18日にかけて、前線が北日本から東日本、西日本に南下する。
- 19日から21日にかけて、高気圧が朝鮮半島付近から日本の東に移動し、前線が本州南岸付近から日本の東にのびる。

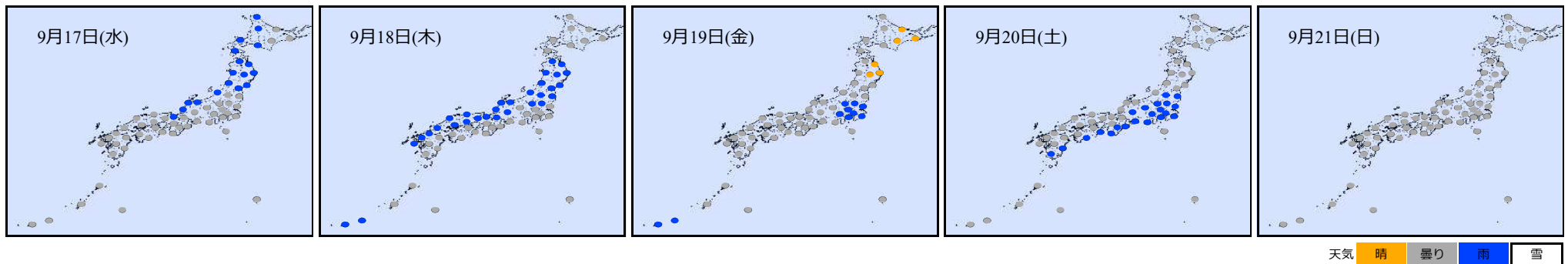
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 北日本日本海側、東日本日本海側では、17日から18日頃に前線の影響で大雨となるおそれがある。
- 東日本、西日本、沖縄・奄美では、気温が高くなり、最高気温が35度以上となる所もある。熱中症など健康管理に留意。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

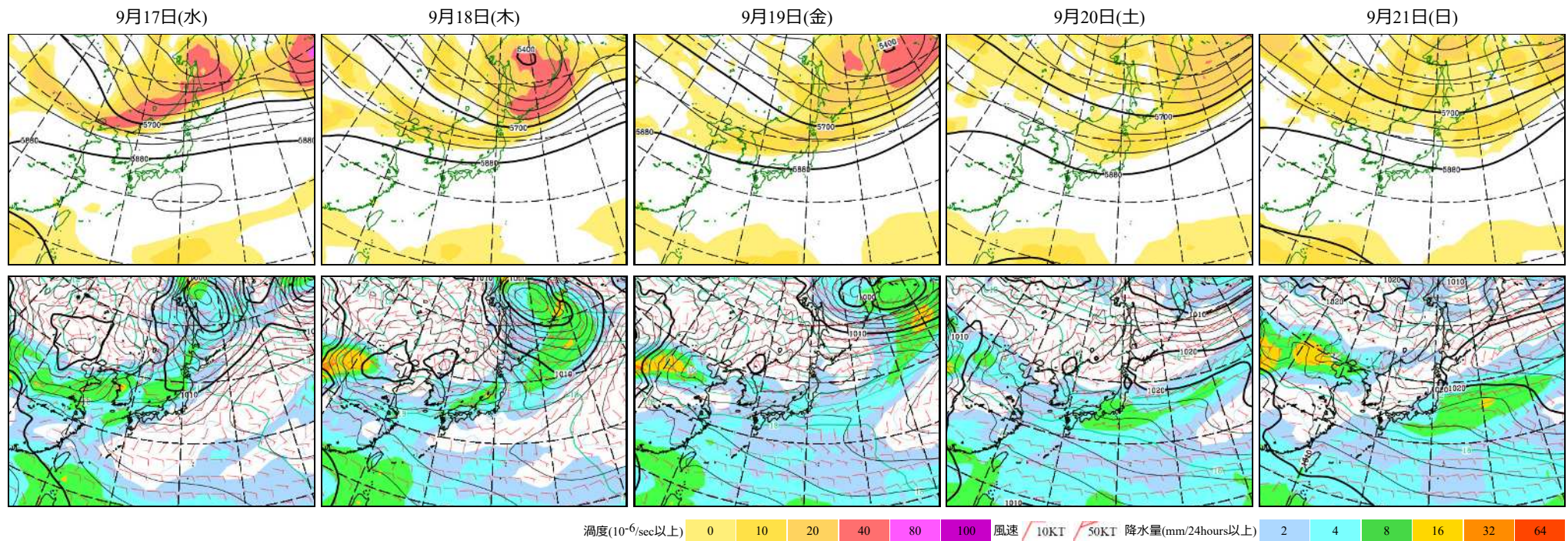
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

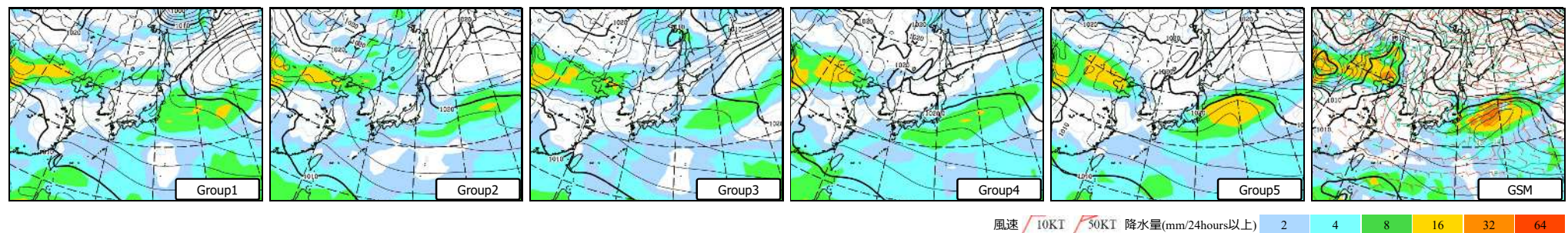


- 北日本は、曇りや雨の降る日が多いが、19日は晴れる所がある。
- 東日本と西日本は、曇りや雨の降る日が多い。
- 沖縄・奄美は、雲が広がりやすく、18日と19日は雨の降る所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆9月21日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、17日から19日にかけて朝鮮半島付近の高気圧が強くなり、前線の北日本から東日本、西日本への南下が早くなった。20日から21日にかけて日本の東の高気圧が強くなった。
- 17日から18日にかけて前線が本州付近を南下し、19日から21日にかけて前線が本州南岸付近に停滞することはどのモデルも予想しているが、20日以降の前線の位置はモデル間に差がある。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。